

## 【地域の概要】

- 蜂屋町は、美濃加茂市の中央に位置する、人口7,698名、2,825世帯の地区です。
- 蜂屋町は丘陵地であり、農地は田17,213アール、畑15,392アールあります。そのうち、柿の圃場は1,130アールとなっています。
- 蜂屋町の子な農業は水田、柿であり、特産品は堂上蜂屋柿です。

## ①取組開始前の状況や課題

## （状況）

蜂屋町は、柿の生産が盛んであるが、農業者の高齢化と、後継者の不足により、「地域のブランドをいかに守れるか」といった課題がある。令和3年3月に「人・農地プラン」が実質化され、地元の農業委員、農地利用最適化推進委員から、以下の課題が挙げられた。

## （課題）

- ・堂上蜂屋柿の圃場を耕作できない人が増えている。
- ・個人での圃場の管理は、さらに困難になる。
- ・柿の栽培は難しいイメージがある。
- ・宅地化により、川沿いの風通しが悪くなり、蜂屋柿の天日干しがしづらくなった。

## ②取組内容

## ○（蜂屋町内の柿の圃場の調査）

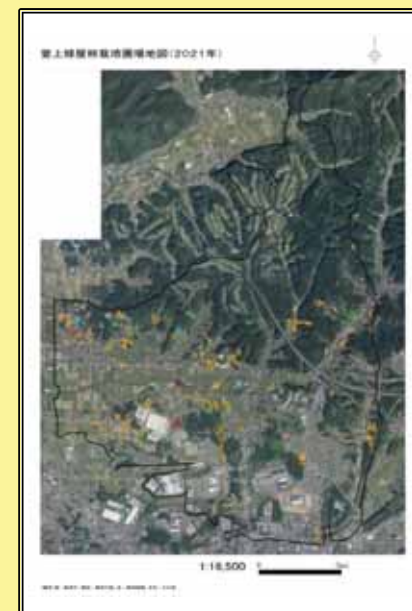
現状を把握するために、地元の農業委員、農地利用最適化推進委員、JA、蜂屋柿振興会会員、農業委員会事務局が、蜂屋町内の柿の耕作状況を調査し、柿の圃場の見える化を行った。

## ○（不耕作である圃場の所有者へ利用意向調査）

耕作状況調査をもとに、再生可能性のある圃場の所有者11名（138アール）に対して、利用意向調査を実施。結果は4名（42アール）から、耕作を誰かに行ってほしい、との回答があった。

## ○（地元の農地最適化推進委員と協議）

利用意向調査をもとに、今後、不耕作圃場の整備と農地の集積をしていくことについて協議した。



▲蜂屋町の柿の圃場を見える化

## ③今後の展開と方向性

- 関係者間で協議をし、安定した柿の生産ができるよう不耕作圃場の整備を行う。
- 現在耕作されている圃場は、継続して生産できるよう担い手を探していく。